

「2017 NAB ショー」で期待される 衛星通信・衛星放送業界の動向

神谷 直亮

全米放送事業者協会 (National Association of Broadcasters: NAB) が主催する恒例の「NAB ショー」が、今年も4月22日から27日まで米ネバダ州ラスベガスで開催される。世界最大を誇るエレクトロニックメディア展と言われるだけあって、衛星通信・衛星放送事業者も毎年のように参加している。予想される今年の3大テーマは、ウルトラ HD (4K/8K) 衛星放送、大容量衛星通信を目論むハイスループットサテライト (HTS)、船舶や航空機をターゲットにした移動体衛星通信と思われる。さらに、今年になって勢いがついてきた VR (仮想現実) や AR (拡張現実) の分野での新しい展開が期待できそうだ。

まず、衛星通信・衛星放送事業者で今年出展を予定しているのは、インテルサット、SES、ユーテルサット、イスパサット、エコスター、インマルサット、テレサット、ロシア衛星通信会社 (RSCC) の8社だ。売り上げベースで世界第5位につけ、4K HDR で先行するスカパー JSAT の初出展に期待したが、残念ながら今年も実現しない。

インテルサット社は、昨年、初めて「テレビのコンテンツでアジアと世界を結ぶ」という意表を突く売込み戦術を展開した。ここで紹介されたのは、同社のインテルサット19 (東経166度) とインテルサット20 (東経68.5度) 衛星で配信しているチャンネルラインアップである。例えば、インテルサット19では、NHK ワールド、KBS ワールド、Arirang、ABS-CBN など日本、韓国、フィリピンなどのリージョナル番組を配信していると強調した。一方、インテルサット20で配信されている番組

としては、ZEE Cinema、Neo Sports、Ten Sportsなどを挙げていた。今年は、どのようなトピックスを取り上げるのか注目したい。

昨年の同社の会場で、もう一つホットなテーマとして取り上げられたのは、ウルトラ HD (4K) である。インテルサットの自社制作ではなく、ハーモニック社がベニスで撮影したという4K HDR コンテンツをLG電子製の65インチテレビで再生して見せて、この分野でも存在感を露わにしていた。今年は、どのような4K、4K HDR、4K VRなどのコンテンツをアピールするのか楽しみである。

HTS ビジネスの分野では、2016年1月に同社の第1号衛星となる「インテルサット29e」が打ち上げられ、その後8月に第2号「インテルサット33e」も成功裏に投入された。2機体制による本格的な運用に入ったことで、どのような実績が積みあがっているのか確認してみたい。

ルクセンブルグに本社を構えるSES社は、昨年、東芝の4Kテレビを使って「ファッションTV 4K」のライブ映像を中心に再生デモを実施していた。エントーン、トムソン、Air Ties社製の3種のSTBを並べて、時折、切り替えて再生していたのが興味深かった。同社は、すでにコマーシャルチャンネルとプロモチャンネルを合わせて30チャンネルの4K番組を提供し、世界のリーダーになっていると言われており、どこまで拡大路線を広げているのか確認してみたい。

ユーテルサット社は、昨年のショーでは、パリ近郊にある同社のランブイエ・テレポートをありとあらゆる角度から撮影し

た最新の4K PR映像を紹介していた。提供している4Kチャンネルについては、コマーシャルベースと試験放送を合わせて8チャンネルとのことであったが、噂では、最近ドバイのOSN (Orbit Showtime Network) など中東の番組を取り入れて拡大基調にあると言われており、全貌の把握に努めたい。

HTSの分野に関しては、すでにヨーロッパで「KaSat」による独自のビジネスを推進している。昨年から採算ベースに乗ってきたと聞いているが、その成功の秘訣を確認してみたい。さらに、アメリカのバイアサット社との提携関係を強めるとの発表を行っており、具体的な展開方法を探ってみることにしたい。

3年前のNABショーで、いち早く北中米向け4K専門チャンネルを開局して注目の的になったスペインのイスパサット社は、昨年、ポルトガルのポルトで開催されたミュージックイベント「Primavera Sound 祭り」の4K映像とイスパサット社が主催した「第1回4K国際フィルムフェスティバル」の入賞作品を披露していた。今回のショーでは、どのような4Kライブイベントが報告されるのか楽しみにしている。また、第2回4K国際フィルムフェスティバルの成果についても話を聞いてみたいと思う。

昨年のエコスター社のブースでは、子会社のデイッシュ・ネットワークによる4K衛星放送より、孫会社のスリングTVによる4K OTTサービスを先行して推進しているという予想外の話がなされた。今回、同社のブースを訪問する楽しみは、衛星放送の他に、ネットで配信されている4K番組



写真1 インテルサット社は、ハーモニック社がベニスで撮影したという仮装カーニバルの4K HDR映像を上映して注目を集めた。(NABSHOW2016)



写真2 SES社は、東芝のレグザを使って「ファッションTV 4K」のライブ映像を中心に再生デモを実施した。(NABSHOW2016)



写真3 ユーテルサット社は、同社のランブイエ・テレポートのアンテナ群を撮影した最新の4K PR映像を紹介した。(NABSHOW2016)

の最新情報を入手することにある。スリングTV以外にも、Netflix、Hulu、Amazon Primeなどの最新情報も聞いてみたいと思う。

移動体衛星通信を主導するインマルサット社は、昨年のステージでリオデジャネイロとラスベガス間を結ぶ衛星ライブ中継のデモを行って意表を突いていた。デモで使用されていたのは、コプハム社の「エクスプロアラー 3075GX」可搬局（アンテナ直径75センチ）とAVIWEST社の送受信端末であった。同社は、最新の第5世代インマルサット衛星を3機打ち上げて、完璧に態勢を整えており、今年は、このKaバンド中継器を使ってどのようなデモを行うのか興味津々である。また、インマルサットは、第5世代衛星でほぼ世界中をカバーする唯一のオペレーターになったが、これに満足することなく、次の第6世代衛星をすでに発注したと言われており、その後の進展状況を確認してみたい。

カナダのテレサット社は、昨年、最新の「テルスター 12 Vantage」衛星を前面に押し出し、PRに余念がなかった。搭載された52台の中継器がすべて順調に稼働しており「打ち上げに使った日本のH-2Aロケットに対する社内の評価は高い」と語っていた。今回は、まず、その後の稼働状況を三菱重工業に代わって確認することにした。また、4Kに対する方針と実績についても聞いてみる予定である。カナダでは、ケーブルテレビ事業者のロジャースとベル・カナダが、4Kでプロホッケーの試合を生中継して好評だったと言われており、テレサット社としても衛星配信を真剣に検討しているものと思われる。



写真4 イスパサット社は、ポルトガルのポルトで開催された「Primavera Sound祭 2015」の4K映像を披露した。(NABSHOW2016)

昨年のブースでRSCC社は、フランスのユーテルサット社にロシアでの4K衛星放送を先取りされて悔しい思いをしていると語っていた。あれから一年間で、トライカラーやNTV+の4Kビジネスを取り込めたのか結末を聞いてみることにしたい。

上述した衛星通信・衛星放送事業者による出展以外に、「NABショー」の楽しみとして屋外展示があげられる。毎年、中央ホールと南ホールの間に「アウトドア・モバイル・メディア」特設会場が設けられ、ここに大型中継車と多様な車載局が集結する。今年の興味は、4KやVR対応のどのような展示とデモが行われるのか、待ちきれない気持ちでいっぱいである。

ちなみに、昨年、4K中継車の初出展を飾ったのは、TV Pro Gear社（本社、カリフォルニア州グレンデール）で、車内には、ソニーの4KモニターとBehringer製オーディオミキサーを除いて、ブラックマジックデザイン社製のATEM 2 M/E 4Kスイッチャー、HyperDeck Studio 12G 4Kレコーダー、Smart VideoHub 4Kビデオルーターが搭載されていた。今年は、同社



写真5 TV Pro Gear社は、4K中継車「Flypak」を初出展して注目を集めた。(NABSHOW2016)

以外に、大手2社（モバイルTVグループとNEPグループ）の出展に期待したい。一方、昨年、初のVR中継車を出展したのは、大型中継車や車載局の分野で30年の歴史を誇るガーリング&アソシエイツ（G&A）社である。顧客名を聞いてみたら、カリフォルニア州ラグナビーチに本社を構えるNextVR社とのことであった。車内では、NASCAR スプリントカップ開幕戦「デイトナ 500」のレースの模様を撮影したVR映像が、ソニーの4Kテレビで再生されていた。さらに、オキュラス・リフトやサムスン・ギアを使ったVR体験コーナーが設けられており、来場者の興味を引くと同時に息抜きを提供するという力の入れようであった。今年もこの分野をプロモートしているNextVR、LiveLike、FOXスポーツなどの出展に期待したい。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト